

梓書院 新刊のお知らせ

本書の配本は有りません。
1冊からご注文可能です。



ある校長の樺太・台湾旅日記 祖父の記録から読み解く「領土」と先人の努力

当時、小学校の校長植にあった上野季雄は、昭和6年に樺太24日間、昭和10年に台湾21日の研修視察に参加。樺太でのアイヌとの交流や国境見学、台湾での近代化の様子など、視察による見聞をこまやかに記録していた——。2冊の旅日記を丁寧に読み解き、考察を加えた、日本による統治時代の樺太・台湾のを知ることができる貴重な資料。

かつて日本の領土であった樺太・台湾。
昭和初期の発展の様子が一人の校長の日記を通して蘇る。
ロシアのウクライナ侵攻を機に「領土とは何か」を考える一冊。

8/1
発売!!

上野 幹久(うえの・みきひさ)

昭和24年、福岡県朝倉市(現)に生まれる。福岡教育大学卒業後、久留米市内の小学校に勤務。福岡教育大学の附属小学校や久留米市教育委員会を経て、平成11年に久留米市立の小学校長となる。11年間の校長生活を送り、同市校長会長、県校長会副会長を歴任。退職後は八女郡広川町教育研所長、福岡教育大学の後援会長を務める。平成28年に作家でジャーナリストの門田隆将氏の推薦を得て刊行した『木槿の国の学校』(梓書院)が、同年11月にアマゾン売れ筋ランキング[昭和・平成部門]で全国1位となる。平成2年1月には台湾総統選挙後に門田氏他と当地を視察。同年4月、春の叙勲(瑞宝双光章)を受章する。現在、福岡教育大学同窓会の広報部長。

四六判・ソフトカバー・292P
定価：1,650円(本体1,500円+10%税)
ISBN 978-4-87035-743-3

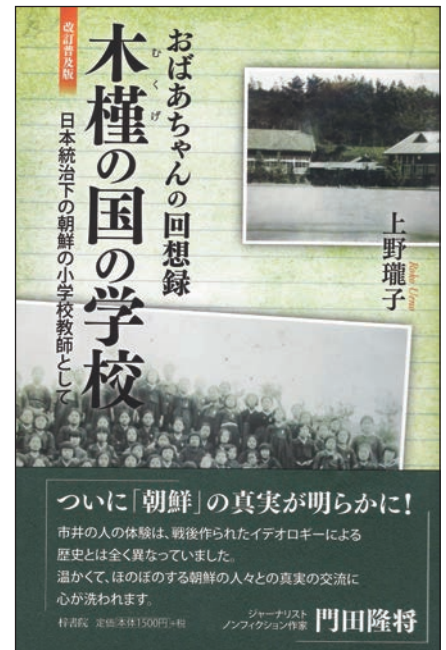
あわせてオススメ既刊

おばあちゃんの回顧録 木槿の国の学校 日本統治下の朝鮮の小学校教師として 改訂普及版

四六判・ソフトカバー・260P 上野瓏子・著 上野幹久・編

日本統治下時代、日本人と朝鮮人とはどのような関係にあったのか。朝鮮での学校の様子はどうかであったのか。日本統治下の朝鮮の学校教育という制度の中に身を置き、子どもたちと関わりながら、戦中、戦後の激動期を気丈に生きた一人の女性教師の足跡。その中から朝鮮統治のありのままの姿が見えてくる。

日本統治時代、朝鮮の生活はどのようなものだったのか。小学校教師として、日本統治下の朝鮮で多くの子どもたちや朝鮮の人々とふれあってきた著者。そんな著者が語る貴重な証言の数々には、朝鮮人と日本人の心温まる交流もあれば、日韓併合がもたらした光と闇も散見する。戦後の朝鮮における反日教育、また国内における自虐史観によってゆがめられた真実の姿が、ありのままに浮かんでくる貴重な一冊。



貴店番線	ご担当	日販・トーハン・楽天・きんぶん図書にてお取り扱いしています	冊数
	様	ある校長の樺太・台湾旅日記 祖父の記録から読み解く「郷土」と先人の努力 ISBN:978-4-87035-743-3 C0021 定価:1,500円+税	冊
		木槿の国の学校 おばあちゃんの回想録 日本統治下の朝鮮の小学校教師として 改訂普及版 ISBN:978-4-87035-585-9 C0095 定価:1,500円+税	冊